

# 真狩村が誇る偉人紹介



偉大な作曲家 八洲 秀章	世界が認める版画家 一原 有徳	農機具開発の功労者 谷岡 壽男	無給の村長 田 端 元	肖像画の大家 石田 閑山	演歌界の大御所 細川 たかし
<p>大正4年(1914年)6月2日 ~ 昭和60年(1985年)12月30日 出身地: 真狩村字泉 在住期間: 出生~昭和11年まで</p>	<p>明治43年(1910年)8月23日 ~ 平成22年(2010年)10月1日 出身地: 徳島県那賀郡平島村 在住期間: 大正2年~大正12年</p>	<p>明治41年(1908年)4月7日 ~ 平成7年(1995年)1月15日 出身地: 真狩村 御保内 在住期間: 出生~平成7年</p>	<p>明治25年(1892年)1月10日 ~ 昭和43年(1968年)6月6日 出身地: 青森県上北郡奥沢村 在住期間: 大正9年~昭和43年</p>	<p>大正11年(1922年)7月22日 ~ 平成31年(2019年)3月7日 出身地: 上川郡東川村 在住期間: 昭和23年~昭和26年</p>	<p>昭和25年(1950年)6月15日 ~ 出身地: 真狩村字桜川 在住期間: 出生~昭和41年</p>
<p>上京後、山田耕筰氏に師事し、代表作としては、「さくら貝の歌」、「あざみの歌」、「毬藻の歌」などがあげられます。 歌手 島倉千代子に稽古し、藤圭子を発掘し、女優 吉永小百合の最初の歌の先生でもありました。昭和34年には、第1回レコード大賞童謡賞を「やさしいおしょうさん」で受賞し、昭和43年には「交響詩 開拓者」をレコーディングし、開道百年北海道大博覧会でも演奏されました。 また、全国各地の学校の校歌を作曲し、その曲数は50を優に超え、真狩村では、真狩小学校ほか3校の校歌が八洲先生の作曲です。さらには、「真狩村村歌」、「真狩祝い太鼓」、「真狩小唄」、「マッカリ音頭」なども八洲先生が寄贈したもので、歌謡界のみならず、地域への功績も輝かしいものです。</p>	<p>大正2年、家族とともに真狩村字富里に移住し、真狩尋常小学校卒業まで真狩で育ちました。 大正12年、家族とともに小樽に移住し、16歳にして通信省小樽貯金支局に事務員として入局し、60歳の定年退職を迎えるまで勤務しています。41歳の時に、職場先輩の指導を受け、油彩画を始め、47歳の頃に版画を始めたそうです。定年後、創作に専念し、65歳になって北海道立近代美術館優秀賞を受賞するなど、多くの美術展の賞を受賞しています。一方、小樽市などでは、公園のモニュメントをデザインするなど地域への貢献も行い、真狩村開基100周年の記念モニュメント「翔」も一原デザインによるものです。また、版画や絵画のほか、戦前から北海道の山々を歩き登山家としても高名であるとともに、俳句も手掛け句集も出版しています。</p>	<p>尋常小学校卒業後、伊達にある農機具屋で業を修め、昭和5年、22歳で真狩村に帰って、鍛冶屋「谷岡鉄工所」を開業します。プラウの弱点である重く使い勝手の悪い形式を改善することに努め、自ら考案した軽量で頑丈な「寿プラウ」の普及に励んだ結果、その評判は内地まで広がり、昭和11年9月、昭和天皇が北海道に行幸した折り、耕起実演天覧の光栄に浴することとなります。 また、じゃがいもの収量を大幅に増やし、農作業の軽減にもつながる「谷岡式高畦栽培機」を製作するなど、昭和36年にその功績を称え、「農機顕頌の碑」が建てられています。(真狩公民館の南側) その後、村議会議員などを務められ、農業振興や村の発展に尽力された功労者といえます。</p>	<p>○無給(乗馬ズボン)の村長 戦後、4期16年にわたり無給で村長職を務め、数々の政策を実現し、真狩村の発展に大きな貢献と業績を残した乗馬ズボンが似合う偉大なる村長です。  ○成し遂げた主な功績 ・自家用電気組合を設置し25世帯に電気供給 ・北海道食糧缶詰株式会社と東食農産物加工場を誘致し雇用創出 ・採石場を開いて機械砕石を開始 ・病院を建設(内科・外科設備) ・真狩と狩太(現ニセコ)の冬期間の通行維持 ・公民館の建設 ・北海信用金庫の誘致 ・美原小学校の開校 ・真狩季節保育所を開設(イモ堀りさんのため) ・陸上自衛隊にイモ堀り援農要請し実現 ・老人会「真鶴会」の発足と祝い金の配布 ・冷害凶作対策として農業生活資金を支給 ・村民の娯楽として「ばん馬競争」を挙行 ・公認の総合グラウンドを整備 ・八洲秀章氏による「マッカリ音頭」を発表 ・真狩村史を発刊  真狩村名誉村民第1号となる。</p>	<p>石田さんの真狩村での生活は、終戦後の昭和23年(1948年)が始まりで、その後、約3年、真狩で過ごすこととなりますが、その間、村の人々の肖像画はもちろん、当時あった真狩劇場の緞帳に絵を描くなど、絵を通して人とふれあい、真狩住民の目を大いに楽しませてくれたといえます。 昭和26年(1951年)、上京し、日本画家 内山観月氏のもとでさらに肖像画の勉強に励み、昭和36年、米国ホワイトハウスから依頼を受け、当時のケネディ大統領の肖像画を描くなど、世界的に知られる画家となり、数々の賞を受けることとなります。 平成5年8月に完成した真狩交流プラザのロビーには、200号の大作「羊蹄山」が掲げられ、村の人々や真狩を訪れる観光客を楽しませてくれています。</p>	<p>○故郷を愛し歌い続ける歌手 昭和50(1975)年4月、コロンビアレコードから「心のこり」でデビュー、最優秀新人賞を受賞、その後、「北酒場」、「矢切の渡し」と2年連続でレコード大賞受賞、「浪花節だよ人生は」でレコード大賞最優秀歌唱賞を受賞し、男性演歌で初の3冠に輝きました。細川さんは、ふるさと真狩のことをとても懐かしく、そして誇りに思っているといえます。 真狩村の開基百年記念や百二十周年には、真狩総合グラウンドでコンサートが開催され、住民にその素晴らしい歌声を届けてくれました。  真狩の知来別には、細川たかしさんを讃える石碑や、真狩川のほとりに銅像が建てられています。</p>